

第27回津山加茂郷フルマラソン全国大会 ケアステーション報告

報告者:副会長 松浦 浩市

2019年4月21日に行われた津山加茂郷フルマラソン全国大会は好天の中行われましたが、やや高い気温に選手は悩まされたようです。しかし例年に比べると足の痙攣などは比較的少なかったように思いました。

恒例となったケアステーションには完走された選手が笑顔で来られ「今年も良い走りができた」「このケアステーションを楽しみに帰ってきた」と言ってくれる方も多く来られました。

今年のスタッフ12名、朝日医療大学校から教員3名、学生6名の計21名が参加しました。学生はケアスタッフとともに施術についていろいろと楽しく話を交わしながら活動しているようで、とても和やかで有意義な空間に感じました。

開会式では私も役員とともに選手の前に整列し、ひとこと挨拶をさせていただきました。日赤救護の方、大会役員の方には非常によくしていただき、わざわざ私たちのために「ふれあい広場でおうどんを準備しているのです是非食べてください」と準備をしていただき、みんなで美味しくごちそうになりました。

このたびスタッフとして参加されなかった皆様も来年はぜひご参加くださいませ。



<ケアステーション看板>



<施術風景>



津山加茂郷フルマラソン参加

・鍼灸学科1年 横山 大生

「普段みることのできない実際の現場での鍼灸治療をみる事ができた。先生方が様々な刺し方をされていて、今後の自分の方向性の参考になった。」

・鍼灸学科1年 山根 颯太

「ランナーの方に施術をする際に、非常にスムーズにコミュニケーションをとられていた。施術への第一歩としてコミュニケーションの重要性を感じることができた。」

カヌー駅伝参加

・鍼灸学科1年 恒松 雄太

「先生方が、レース前に選手の方に積極的に声をかけておられた。身体の治療だけでなく、心のケアも一緒にできる鍼灸師になりたいと感じた。」

・鍼灸学科1年 斎藤 秀人

「身体が悪くなってからの治療だけでなく、身体が悪くならない様な指導もされていた。未病の考えにさらに興味を持つことができた。」

朝日医療大学校 鍼灸学科長 北村 圭司

「学生の実習としての参加を受け入れていただき、多くの先生方と学生がコミュニケーションを取ることのできる貴重な機会であったと感じた。普段、学生達が聞くことのできない話もしていただき、大変有意義な機会でした。」

令和1年度子育て支援イベント「おぎゃと21」報告



報告者:女性部会委員会委員長 石部 春子



〈会長とうさぎ〉



〈小児はりパンフレット〉



〈小児はりの説明〉

開催日時: 令和元年6月29日(土) 11:30~12:00
令和元年6月30日(日) 11:30~12:00
会場: コンベックス岡山 岡山市北区大内田675番地

参加者スタッフ:

- 6月29日(土) 8名 石部春子、入江歩美(うさぎ)、丹羽理恵(うさぎ補助)、谷口美保、山口大輔、藤井寛之、居石三和子、井上貴章(広島県)
- 6月30日(日) 6名 石部春子、入江歩美(うさぎ)、東原広一郎、鈴木紀子、居石三和子(うさぎ補助)、

井上貴章(広島県)

上記の日程で、令和1年度子育て支援イベント「おぎゃと21」でのステージ出演をしました。はぐくみ岡山推進イベント「おぎゃと21」とは、毎年、はぐくみ岡山実行委員会(岡山県、岡山市、倉敷市、津山市、山陽新聞社会事業団、山陽新聞社)が主催する、子どもたちの健やかな成長を社会全体で支援し、豊かな社会をみんなで築いていこう、そんな想いが詰まった参加・提案型イベントです。会場では出展ブースの設置やステージ出演が多くあり、乳幼児とその保護者ら多くの方々にぎわいました。

我々、女性部会委員会は、ステージから、着ぐるみのウサギさんをモデルに、親子の信頼関係をより深く築き、子どもたちの健やかな成長のためのツールとしてのツボタッチケアの方法「パパ・ママができる子育て簡単ツボタッチ」を発信し、客席側で、鍼灸師が子どもさんには直接触れずに、ご両親、ご家族へのツボ指導を行いました。

二日間ともに、(公社)岡山県鍼灸師会会員、会員以外、朝日医療大学の教職員の協力のおかげで、楽しく開催することができました。昨年に続き2度目のステージ出演でした。

今年度は、親御さんには(公社)日本鍼灸師会発行の小児はりのパンフレットを200枚、子どもさんたちには、顔の絵のついた可愛い風船200個用意し配布しました。

その結果、昨年よりも多くの親御さんたちにステージに集まっていただくことができ、子どもさんへのツボタッチケアの方法や鍼灸業界に対して興味を持って参加されていたように感じられました。

女性部会委員会のイベントとして、子育て支援に貢献できるよう、また多くの人に鍼灸業界を認知して頂けるよう次年度にもつながればと思っています。



〈1日目:6月29日参加スタッフ〉



〈2日目:6月30日参加スタッフ〉

第5回おかやまマラソン2019 ケアステーション運営報告



報告者:(公社)岡山県鍼灸師会 副会長 松浦 浩市

第5回を迎えるおかやまマラソン記念大会は令和元年11月10日(日)8時45分、晴れの国おかやまにふさわしい晴天の下、16320人が一斉におかやま路に飛びだした。主催者発表によると、沿道の応援は16万人を超えていたようです。

ケアステーションは、早朝6時45分より開始され16時頃まで運営されました。おかやまマラソンは、国内最大級のランニング専門サイトの2018年大会ランキングで、参加者7000人以上の大規模大会を対象とした部門で1位を獲得した。大会関係者の米澤局長から「この大会が人気ナンバーワンになった立役者の一つはこのケアステーションです。今年も是非頑張ってください」と、激励の言葉をいただきました。

京都と鳥取から応援に来ていただいた先生を含め(公社)岡山県鍼灸師会と(公社)柔道整復師会のスタッフは早朝6時に集合しミーティングを行いました。その直後から出場者の行列がではじめ、開始予定時刻の7時を変更し6時45分に受け入れを開始しました。テーピング、ストレッチ、マッサージ、鍼とあらゆる要望があり、今年から設置された更衣スペースも大いに活用されました。8時45分のスタートに間に合うように選手を送り出し、第2回目のスタッフミーティングを行いました。今回は各テントに人員を正確に配備し、テントリーダーを決め、問題がある場合テントリーダーへの報告や相談が行いやすい環境整備を行い、万が一の事故発生時にも速やかに対応できるようにし、またマッサージ師のみの資格を有したスタッフも活躍できるようボランティア、テントリーダーが配慮し、結果として大きな問題はなく十分活躍ができました。

救護対応に関しては、昨年に続きAED救護班のドクターに講師をお願いし、11月3日に事前の救護ミーティングを行い、十分にコミュニケーションをとることができました。マラソン当日は9時30分よりゴールAED班とのミーティングを行い、万全の態勢を整え望んだところ、ミーティング終了時からファンラン(5,6km)出場者の中で体調不良が始め、早々に忙しくなりました。今回の救護は柔道整復師会メンバーを中心に運営するというで開始したが、要救護者が多数であったため、石部先生、榎先生、吉田(高)先生、高木先生の4名は常に救護者の対応に奮闘していました。今年の急患の状況は、気温が20度くらいと比較的良好な条件にもかかわらず低体温症、低ナトリウム血症、脱水症、低血糖の出場者がいたようです。救護ドクターもケアステーションのテントを訪れ、鍼施術なども興味深げに見学され、救護連携もよくできていたよう見受けられました。今年から電源コンセントを設置していただき、低体温の方には温かいペットボトルを準備し、体を温める処置が実施可能となりました。

スタート前には303人の出場者がケアを受けた。スタート後、予想では10時ごろから利用者が増えると準備していたが、実際には9時30分ごろからすでに多くの出場者がケアステーションを訪れ、少ないスタッフで対応せざるを得なかったのは反省点です。

受付テントでは、一度に受付できる人数を10人程度とし、そこから待合椅子にて順番を待っていただき、5人ずつ中待合に移動させ、そこから空いたベッドに誘導し、ケアスタッフには10分以内で施術を終了させ、出口にてアンケート記入を促すよう伝達しました。時折施術中に体調不良を訴える出場者もいましたが、テントリーダーの的確な判断のもと、その場で安静にしてもらったり、救護スペースに移動して対応したりスムーズな運営ができました。一部の救護者は、はじめ救護スペースで対処し、その後ジップアリーナの救護所に搬送した事例もあったが、大きな問題にはならず安堵しました。

昼を過ぎると、天候も良かったためテントの中は、たくさんの施術者と利用者から発せられる熱気がこもり非常に暑くなったため、急遽テントの裾を開けて対応したが、施術するスタッフの疲労ははかり知れなかったと思います。ケアステーションの運営に協力いただいたスタッフの皆さま、本当にお疲れ様でした。

利用者数:スタート前 303人 スタート後 956人 救護 33人 計1292人
施術者:鍼灸師会43人、柔道整復師会22人、計65人 学生44人 総数109人



<施術風景>

【ご参加いただいた鍼灸師会の先生方】

松浦浩市 西谷典人 内田成洋 赤澤成仁 近藤洋介 三村堅二 高橋裕介 中嶋健治 西川徳彦 小野由実子 木多勇企 柳生良雄 小川大地 兼森史峻 藤井竜一 倉林譲 安藤晶美 白井里実 小原陸夫 東原広一郎

福原隆行 大島修 北村圭司 三浦大貴 井元利明 井田奈美枝 芦田梨恵 徳山あゆみ 山口大輔 石部春子 榎清人 吉田高行 高木謙輔 吉田和彦 落吉生 森近雪雄 能勢金市 木下勝政(手技療法)

岡百合子(鳥取県師会) 西川徳彦(鳥取県師会) 中川萌海(朝日医療大学) 吉田直樹(京都県師会)

2019年、年末、柔道整復師会会長と鍼灸師会会長をはじめ代表者は今大会の反省と第5回のケアステーションについて課題を出し合いました。今回はビブス、看板の設置について問題となりました。実行委員会からビブスに関しては柔整師会、鍼灸師会、治療院名を提示するのはOK、テント看板については施術所名などの掲示は禁止との判断がなされ、各会の名称掲示のみにすることとなりました。またゴール救護班との事前打ち合わせに参加するよう要請があり打ち合わせおよびスキルアップ講習会を行うことが決定しました。

アンチエイジングフェア報告

報告者:(公社)岡山県鍼灸師会 副会長 松浦 浩市

会場:イオンモール岡山5階未来ホール・ホワイエ

日時:令和元年11月16(土)17(日)

主催:OHKテレビおかやま放送

第1回目のこのイベント、「大阪では鍼灸ブースを出展して大盛況だった、是非岡山でも出店を」との推薦をいただき、新しい取り組みとして出展料を負担しての出店とPR舞台企画を決意。

この度は「アンチエイジング」にちなんで、新風を巻き起こそうと若者会員に企画・運営をしてもらいました。高木理事を中心に白井、安藤、竹井、秋友らが必死で取り組んでくれました。

内田会長の「見える化」を意識、サーモグラフィーを使い鍼の即効性を見せようこと。良導絡自律神経測定を行い数値化したデータをもとに体調を測定し説明すること。今までのようにベッドに横になるのではなくこの度は対面形式で来客と向き合い鍼について、健康について、東洋医学について知ってもらおうということで会話、触れ合いを基本に進めてまいりました。活動中はBGMではなく映像で鍼灸を伝えるため、鍼灸プロモーションビデオを作成し常時スクリーンに映し出しました。

16日10時にオープンとともにお客様がなだれ込むかと思ったが、残念ながら、出足はあまり良くありませんでしたが、しかし、おかげで一人一人丁寧にしっかりと耳を傾けることができ、相談に応じ1穴、2穴に絞り込み、何とか納得して帰ってもらおうと、参加していただいた先生方の表情も真剣そのもの、いつものイベントのように10分以内で人数をこなすのではなく、マンツーマンで向き合い、今までにない非常にクオリティーの高い空間に感じました。私も実際に対応しましたが10年前から「めまい」で困っています。いろんな病院にも行きましたが一行に辛さは軽減しませんでした。このまま一生こんな状態かと不安ですと訴えるご婦人の表情は真剣です。私は東洋医学的な考え方や鍼灸のお話をさせて頂いたところ、表情はとても明るくなり良導絡測定をしていただき、スタッフから「ストッキングをはかれていますので手だけの測定にしますね」というと「ストッキングを脱いでくれるので手と足両方計ってください」とトイレまでストッキングを脱ぎに行かれ再度測定をされました。そのうちサーモグラフィーで鍼の反応を感じて頂いたところ「希望が持てました」と、とても喜んでいただきました。私が「掲示してある鍼灸院で自宅に近い鍼灸院に行ってくださいね」とお伝えすると早速スマホで掲示板を撮っておられました。

2日間で150人足らずの来客でしたが今回の取り組みは大変価値あるものだったと確信しています。今までの鍼体験は、なんとなく鍼を受けて頂くだけにとどまっていたように思いましたが、この度は来場された方と正面から向き合い受ける側も提供する側も真剣でなおかつ深い関係が得られたように見えました。

OHK関係者から、「現代社会に改めて鍼灸師の必要性を感じました。このように必要とされる職業なのになぜ今までメジャーになってきていないのか、今までPRの仕方を間違っていたんじゃないですか」との言葉にはハッとさせられました。私たちは今まで本当に困っている人たちのことを考えてきたのか、そうではなかったのでは、私たちがご飯を食べていくことだけを考えてきたのではないのか、少しでも日銭(ひげに)を稼ごう、一日でも一時間でも多く患者さんが診れる時間を作っておこう、一日でも休むと収入が減る、損をする。などと考えてきたのではないのか。それは正しかったか。この度はこんなことを考えさせられました。

最終反省会において皆さんの反省の言葉の中に「改めて鍼灸師の必要性を感じました」という言葉がありました。これは私も感じたことですが、まさに本イベントにお越しいただいた方の相談および問題解決は鍼灸師にしかできないことだったと思います。特に最近では患者の顔を見ない医師が増えていきますし、体に触れない医師も多いと聞きます。ちょっとしたことで医療機関、医院、病院にかかる方が増えている現在、我々「かかりつけ鍼灸師」は必要なのだと改めて感じました。

令和元年11月16日(土)

吉田高行 松浦浩市 内田輝和 石部春子 才野優一 倉林謙 箕口けい子 入江歩美
秋友理紗 井田奈美枝 白井里実 山口大輔 中原眞行

11月17日(日)

赤澤成仁 山口大輔 松浦浩市 高木謙輔 入江歩美 内田輝和 東原広一郎 吉田和彦 小野由美子 西谷典人 箕口けい子 安藤晶美 中原眞行 中原大二郎 白井里実
学生

11月16日(土)

・河野 実花子 2年(芸大) ・榎村克佳 1年(四国医療)
・平原 莉穂 2年(芸大) ・藤井 愛 2年(芸大)
・古澤 音羽 4年(芸大) ・山本 愛華 (芸大卒業生)

11月17日(日)

・河野 実花子 2年 ・平原 莉穂 2年 ・藤井 愛 2年
・古澤 音羽 4年 ・山本 愛華 (芸大卒業生)



<集合写真>



<ステージにて>



<施術風景>